愛知県名古屋市中区（旧呉服町）における祝言のあいさつ

太田有多子

はじめに

1、対象地の地理的環境：名古屋市は愛知県西部、濃尾平野の中央部にあり、伊勢湾に面している。

2、対象地の社会的経済的環境：愛知県庁所在地である名古屋市は、現在１６区２１００余町である。当地では、中世より清須が中心地であったが、江戸初期に、徳川家康の子義直が尾張藩主として、名古屋に築城し、城下町を開いた。この時、藩士屋敷だけでなく、町家や社寺なども清須から名古屋へ移したことによって、これを「清須越キヨスコシ」という。この移転では、建造物だけでなく、町名や橋名までも移している。呉服町コフクチョーもその一つで、戦前まで商家の町並みを残していたが、第二次世界大戦による戦禍に遭い、現在は中区丸の内、錦という地名を持つ、官庁街、ビジネス街となっている。
名古屋市は、江戸時代より、上方と江戸の中間にある商業都市として栄えており、現在８大都市の一つである。

3、生業：中区には名古屋城を始め、愛知県庁、名古屋市庁があり、官庁と企業ビル、繁華街の多い地区である。
戦前の呉服町は商人の町で、染物屋、洗い張り屋、ラシャ屋などが多かった。

4、交通：ＪＲ、名鉄、近鉄の名古屋駅から地下鉄桜通線「丸の内」、地下鉄東山線「栄」下車。

5、人口：名古屋市で、昭和６３年現在２００万余人

6、調査年月日：平成２年（１９９０）１０月２７日

7、話者：平林信子　大正１４年生まれ
出生地；呉服町４丁目（現在の丸の内３丁目京町通～杉ノ町通）
昭和２３年より昭和区河原通に在住
生家の家業；印刷業
話者が生まれ育った呉服町を始め、碁盤割地域内の町人の居住地区が上町と呼ばれ、彼女は名古屋の上町言葉の保持者である。
今回、生家のあった呉服町でのしきたりをふまえて、名古屋中心部での結婚形式を語ってもらった。

8、調査者：太田有多子

調査場所：平林氏宅居間にて
9、調査方法：質問法による調査
10、◎は「話者による挨拶表現」、
○は「話者による説明文」、
※は「筆者による説明文」を示す。

I．結納授受のあいさつ

※正式な結納授受の挨拶の前に、まず座敷で仲人と新婦の父親が簡単に挨拶を交わし、仲人が新婦の父親に持参のボール紙製の箱に入った結納品を渡す。

◎「ホ゜ンジツワ　オ「ヒガラモ　ヨ「ロシュ゜ー　オ「メデト゜ゴ「ザイマ゜ス。

本日は、お日柄もよろしく、おめでとうございます。＜仲人→新婦の父親＞＜一般的＞＜上品＞

◎「エ゜　ア「リガト゜ゴ「ザイマス。

ええ、ありがとうございます。＜新婦の父親→仲人＞＜一般的＞＜上品＞

※新婦側の者が、受け取った結納品を箱から出し、一つ一つをオサンボ（三方）に載せ、床の間に並べる。その後、正式に結納授受の挨拶を交わす。

1、仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

◎「ホ゜ンジツワ　オ「メデトゴゼァーマ゜ス。コ「ノ゜タビ　コ「チラサマノ「ナ゜ニコサマト　ナ「ニナニケ゜ノゴ「チョーナ゜ンダ「レダレオサマトノ　ゴ「コンヤクガ　「ア゜イト「トノイ「マ゜シテ　ソ「ノ゜オ「シルシオ　ワ「タクシ　ダ「レ゜ダレ「ガーオ「ツカイトシテ　ジ「サン゜イ「タシマ゜シタ。ゴ「ランノウ「エ゜　オ「ーサメ゜イ「タダキマス「ヨ゜ー　「イ゜クヒ「サショ゜ー　オ「メデトゴゼァーマ゜ス。

本日は、おめでとうございます。この度、こちら様のナニ子様＜新婦の名＞とナニナニ家＜新郎の姓＞のご長男ダレダレ男様＜新郎の名＞とのご婚約が相整いまして、そのおしるしを、私ダレダレ＜仲人の姓＞が、お使いとして、持参いたしました。ご覧の上、お納めいただきますよう、幾久しく、おめでとうございます。＜丁寧＞＜

かしこまり><上品>

2、その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「ホ」ンジツワ　オ「ヤク　ゴ「ク」ローサマニゾ「ンジマ」ス。ツ「ツ」シンデ　オ「ウケ」イ「タシマ」ス。ナ「ニナニサマエヨ「ロシク　オ「ツタエ」ク「ダサイマ」セ。

本日は、お役ご苦労様に存じます。謹んで、お受けいたします。ナニナニ様<新郎の親>へ、よろしく、お伝えくださいませ。<丁寧><かしこまり><上品>

◎「ホ」ンジツワ　ゴ「ク」ロサマデゴ「ゼァーマ」ス。ア「チラサマ　ヨ「ロシ」ク　オ「ツタエ」ク「ダサイマ」セ。「マ」　フ「ツ」ツカナム「スメ」デゴ「ザイマ」スガ　「マ」　ド「ーゾ　ヨ「ロシュー」オ「ネゲァーシマ」ス。

本日は、ご苦労さまでございます。あちら様、よろしく、お伝えくださいませ。まぁ、ふつつかな娘でございますが、まぁ、どうぞ、よろしくお願いします。<丁寧><かしこまり><上品>

※その時、母親もオ「ネゲァーシマ」ス（お願いします）といいながら、一緒に頭を下げる。

3、その時、新婦はどのようなあいさつをしますか。

◎ア「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。ヨ「ロシ」クオ「ネゲァーシマ」ス。

ありがとうございました。よろしくお願いします。<一般的><上品>

※当地では、仲人のことをナコードサン、またはオチューニンサンという。仲人には、チスジノシト（血縁）である叔父叔母に頼むのが普通であるが、時としては勤め先の社長や上司の夫婦に頼むことがあり、これをタノマレチューニンという。さらに、見合いのクチキクシト（仲介人）をチューニンヤ（サン）という。

※結納授受の日に新郎側の出席者はなく、仲人夫婦が結納品を持参してくる。新婦側の出席者は新婦とその両親の他、親い親戚が5、6人出席する。時として、多くの親戚を招待して、祝宴を行う場合もある。

※結納品を扱う店のことをユイノーヤといい、結納授受当日には定められた酒肴料や縁起物を並べてくれる。

※結納品としてその他、新婦の家族の一人一人へ贈物が届けられる。昔は白絹、今はハンドバック、パラソルというような日常品を、各人に贈る。それらの表書きには、「御父上様」「御母上様」「御兄上様」などと記されている。

※結納返しは、結納のハンガエシ（半返し）で、仲人が新婦側の代行として、新郎宅へ持参する。やはりこの時も、新郎の家族一人一人に小物を贈る。

◎セ「ンジツワ　ゴ「テーチョーニ　ア「リガ┐トゴ「ザイマ┐シタ。
先日は、ご丁重に、ありがとうございました。＜仲人→新郎の親＞＜一般的＞＜上品＞

◎カ「タチバ┐カリ「デ┐。
形ばかりで。＜新郎の親→仲人＞＜簡単＞＜上品＞

Ⅱ．嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1、嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

◎コ「ノ┐タビワ　オ「メデトー┐ゴ「ゼァーマ┐ス。ゴ「コンヤクガ　ト「トノワレマシタソ┐ーデ　「ケ┐ッコーデゴ「ザイマ┐ス「ナ┐モ。
この度は、おめでとうございます。ご婚約が整われましたそうで、結構でございますね。＜丁寧＞＜上品＞

◎オ「タクサマワ　ゴ「ケッコンカ°ー　キ「マッタゲ「ナ┐ニ　「マ┐ー　オ「メデ┐トゴ「ザイマ┐ス。
おたく様は、ご結婚が決まったそうで、まぁ、おめでとうございます。＜親しい関係＞＜やや上品＞

2、嫁をもらう家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎ア「リガ┐トゴ「ザイマ┐ス。「マ┐　コ「ンゴトモ　ヨ「ロ┐シューオ「ネゲァー┐イ「タシマ┐ス。
ありがとうございます。まぁ、今後とも、よろしくお願いいたします。＜丁寧＞＜上品＞

◎ア「リガ┐トゴ「ザイマ┐ス。ヨ「ロ┐シューオ「ネゲァー┐シ「マ┐スゼ「ーモ。
ありがとうございます。よろしくお願いしますよ。＜親しい関係＞

＜上品＞

Ⅲ．嫁を出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1、嫁を出すことの決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

◎ダ「レ」ダレサン　オ「タクノ」ム「スメサン　カ「タズキャースゲナ「ナ」モ。オ「メデ」トゴ「ゼァーマ」ス。

ダレダレさん＜新婦の家族＞、おたくの娘さん、カタズカレル（結婚される）そうだね。おめでとうございます。＜一般的＞＜上品＞

◎「マー　オ「メデト」ゴ「ゼァーマス「ナ」モー。

まぁ、おめでとうございますね。＜親しい関係＞＜上品＞

○ゴ「ケッコンノ」カ「リニ　カ「タズキャースゲナ」ガ　ホ「レカラ　ヨ「メニ」イ「キャースゲナ」ガトカ。カ「タズク」チュノワヒ「ッジョーニ」オ「ー」インデス。ケ「ッコン」テュノワ　ハ「ッキ」リイ「ワンデ」ス「ネ」。

（名古屋では）ゴケッコンの替わりに、カタズキャースゲナ（カタズカれるそうだ）が、それから、ヨメニイキャースゲナ（嫁にいかれるそうだ）がとか。カタズクというのは、非常に多いのです。ケッコンというのは、はっきり言わないですね。

2、嫁に出す家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「エ」エ　ア「リガ」トーゴ「ゼァーマ」ス。オ「カゲサマデ「ナ」モ。「マー　オ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

ええ、ありがとうございます。おかげさまでね。まぁ、お願いいたします。＜一般的＞＜上品＞

◎「ヘ」エ　オ「カゲサマデ「ナ」モ。「マ」ー「ド」ーゾ　コ「ンゴトモ　ヨ「ロ」シューオ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

へぇ、おかげさまでね。まぁ、どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。＜一般的＞＜上品＞

※オニモツの入る日

式の一週間前ぐらいの吉日に、オニモツ（新婦の嫁入り道具）が仲人と新婦の親戚の男性によって、新郎の家へ運ばれる。新郎側では家族と親戚が待っている。仲人は、持参した目録を新郎の親へ渡す。その

目録には、新婦が持ってきたものすべてが、それこそ靴下何足、石鹸何個まで書き記されている。その際の挨拶としては、

◎メ「デト┐ー　オ「ネゲァー┐イ「タシマ┐ス。

めでたく、お願いいたします。<仲人→新郎の親><一般的><上品>

◎「エ┐　ショ「ーチ┐イ「タシマ┐シタ。チョ「ーダイ┐イ「タシマ┐ス。

ええ、承知いたしました。頂戴いたします。<新郎の親→仲人><一般的><上品>

また、新郎の家では、オニモツを運んできたすべての人に、お酒をふるまって、寸志を渡す。

今でこそ、オニモツは車で運んでくるが、昔は吊ってきたため、その数によって、ミツリ（三吊り）、イツツリ（五吊り）、ナナツリ（七吊り）といった。嫁入り道具のことをオコシラエともいい、普通の家庭ではミツリゴシラエ（タンス２本、長持ち１本）であるが、ナナツリ、ジューイチツリともなると、かなりの金持ちである。

○ア「ッスコノ┐ム「スメサンワ　ナ「ナツリゴ┐シレァー┐ダゲナ。エ「レァー┐コ「トダナー「テッテ。

あそこの娘さんは、七吊りコシラエだそうだ。えらいことだなぁといって。

※式の２、３日前に、新婦とその母親はオクミヤー（町内の組）を結婚の挨拶をして回る。（現在では、式当日にカシナゲ（後述）をしない場合は、この時に菓子を配る。）

◎コ「ノ┐タビ　ケ「ッコン┐イ「タシマ┐スノデ　「ド┐ーモ　オ「セ┐ワニナ「リマ┐シタ。ヨ「ロ┐ショーオ「ネゲァー┐シ「マ┐ス。

この度、結婚いたしますので、どうも、お世話になりました。よろしくお願いします。<新婦の母親→近所の人><一般的><上品>

◎「ハ┐ア　コ「レワ┐オ「メデトー┐ゴ「ザイマ┐ス。「マー　オ「シアワセニ┐ヤ「ッテ┐チョ「ーデァ┐ー。

はぁ、これはおめでとうございます。まぁ、お幸せにやってください。<近所の人→新婦とその母親><一般的><上品>

また、

◎ナ「ンジゴ┐ロデ「マ┐スデ「エ┐モ　「マ┐　「ド┐ーゾミ「タ

ッテ┐チョ「ーデァ┐ー。
（式当日、家を）何時頃出ますでね、まぁ、どうぞ見てあげてください。<新婦の母親→近所の人><親しい関係><やや上品>
◎「エ┐エ　ゼ「ーヒトモ　ミ「サシテ┐モ「ラウワ┐ナ「モ┐。
ええ、是非とも見させてもらうわね。<近所の人→新婦とその母親><親しい関係><やや上品>

Ⅳ．結婚式当日のあいさつ
結婚式当日、結婚式に出席した人たちは、どのようなあいさつをしますか。

1-1、新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。
◎「ホ┐ンジツワ　オ「メデ┐トゴ「ザイマ┐ス。オ「マネキ┐ア「ズカリマ┐シテ　ア「リ┐ガトゴ「ザイマ┐ス。
本日は、おめでとうございます。お招き預かりまして、ありがとうございます。<丁寧><上品>
◎「ホ┐ンジツワ　オ「メデ┐トゴ「ザイマ┐ス。オ「マネキ┐イ「タデァ┐ーテ　「ド┐ーモ　ア「リ┐ガトゴ「ザイマ┐ス。
本日は、おめでとうございます。お招きいただいて、どうも、ありがとうございます。<丁寧><上品>
◎「ド┐ーモ　オ「メデト┐ゴ「ザイマ┐ス。ヨ「ンデマッテ　「ド┐ーモ　ア「リガ┐トゴ「ゼァーマ┐ス。
どうも、おめでとうございます。呼んでもらって、どうも、ありがとうございます。<親しい関係><やや上品>
◎マ「ネーテマッテ　ア「リガ┐トゴ「ゼァーマ┐ス。
招いてもらって、ありがとうございます。<簡単><やや上品>

1-2、父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。
◎「ド┐ーモ　オ「イソガシ┐ー「ナ┐カ　ア「リ┐ガトゴ「ゼァーマ┐ス。
どうも、お忙しい中、ありがとうございます。<一般的><上品>
◎「マー┐イ「ッソガシ┐ーノニ　「ヨ┐ー　キ「テ┐チョ「ーデァ┐ータ「ナ┐。
まぁ、忙しいのに、よく来てくださったね。<親しい関係><やや上品>

2-1、新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

※新郎の父親への挨拶と同じ。

2-2、父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「ヨ」ク　オェ「ーテ」ク「ダサイマ」シタ。「ド」ーゾ　コ「ンゴトモ　ヨ「ロショ」オ　オ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

よく、おいでくださいました。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。<丁寧><上品>

◎オ「イソガシ」ー「ナ」カオ　「ド」ーモ　ス「イマセ」ン。オ「ヒマザ」イカ「ケマ」ス。

お忙しい中、どうも、すみません。オヒマザイ（時間つぶし）をかけます。<一般的><上品>

◎「マー　「キョ」ーワ　イ「ソガシ」イ「ナ」カ　「ヨ」ー　シュ「ッセ」キ「テ」チョ「ーデ」ータ「ナ」モ。

まぁ、今日は、忙しい中、よく出席来てくださったね。<親しい関係><やや上品>　＊シュッセ（キ）：キ音の脱落

◎エ「リャ」ー　「マ」ー　「キョ」ー　オ「ヒマゼァ」ーカ「ケマ」ス。

えらい、まぁ、今日、オヒマザイ（時間つぶし）をかけます。<簡単><やや上品>

※式当日朝、式の前に、ムコイリ（婿入り）ということで、新郎が仲人に連れられて、新婦宅へ来る。そして、新婦の家族、親戚と会い、お酒を一杯程度飲んで帰る。

◎「ホ」ンジツワ　オ「メデトー」ゴ「ザイマ」ス。

本日はおめでとうございます。<仲人→新婦の家族、親戚><一般的><上品>

◎ヨ「ロシュ　オ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

よろしくお願いいたします。<新婦の親→仲人><一般的><上品>

※式当日、新婦が家を出る時、カシナゲ（菓子投げ）を行う。新婦側の親戚が屋根の上から、「ヨメイリヨー、ヨメイリヨー」といいながら、菓子の入った袋を集まってきた近所の人たちに投げる。その菓子のことをナゲガシ（投げ菓子）という。

※新婦が新郎宅へ入る時、マチジョロ（待女）が二人、新婦の両側から手を取って、玄関または座敷まで案内する。マチジョロには、親戚の

１２、３才の娘が勤める。

※戦前は、式を新郎宅で挙げ、そのまま披露宴となることが多かったが、戦後は、近くの神社で式を挙げ、料亭などで披露宴をもうけるようになった。外で、式や披露宴をすることをモチダシ（持ち出し）という。

○モ「チダシデ　ヤ「ロメァ」ーカ。「ホ」テルエ　モ「チダソメァ」ーカ。

モチダシでやろうか。ホテルへモチダそうか。

※式への新郎新婦の出席者が半々のことをデアイ（出合い）という。

○ゴ「ジューニンズ」ツノデァ「ーデ」ヤ「ロメァ」ーカ。

５０人ずつのデアイでやろうか。

○ニ「ジュ」ーニンノデァ「ーデ」ヤ「リマショ」キャー「モ」。

２０人のデアイでやりましょうかね。

※昔は、披露宴を３晩に渡って行うことがあった。その際の出席者は、１晩目が濃い親戚、２晩目が女性ばかり、３晩目が使用人や近所の人である。

○イ「チバン「コ」イノワ　ダ「ンナサマガ　ヨ「ブヒ。オ「トコ」バッ「カ。ソ「ノツギ」ガ　オ「ナゴシュ」ダ「ケ」ヨ「ボ」カ「ヨ」ト。ソ「レカラ　「マ」ー　カ「ンタンナ　シ「ト」タチヨ「ボ」カ「ヨ」。

（初日は）一番（血縁の）濃いのは、旦那様が呼ぶ日。男ばかり。その次が女だけ呼ぼうかねと。それから、まぁ、簡単な人たちを呼ぼうかね。

※結婚式に招待された人は、お祝いとして、多くは酒、その他は小道具（花瓶、菓子鉢、塗り物など）を持ってきた。

Ⅴ．結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

１、結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

◎コ「ノ」タビ　ム「スコ（マ「タ」ワ　ダ「レダレオ）ノ　ヨ「メデ」ゴ「ゼァーマ」ス。ナ「ニカト」オ「セワ」ニナ「リマ」スガ「マ」　「ドー」ソ　ヨ「ロシュ」ー　オ「ネガイ」イ「タシマ」ス。

この度、息子（またはダレダレ男）の嫁でございます。何かとお世話になりますが、まぁ、どうぞ、よろしくお願いします。<丁寧>

<上品>

◎ヨ「ーメデ」ゴ「ゼァーマ」スガ　「マ」　ヨ「ロ」シュー　オ「ネゲァー」シ「マ」ス。

嫁でございますが、まぁ、よろしくお願いします。<簡単><やや上品>

2、そのあいさつに応えて、近所の人はどのようなあいさつをしますか。

◎ソ「ーレワ　オ「メデ」トゴ「ゼァーマ」ス。コ「チラコソ　「ド一」ゾ　ヨ「ロ」シュー　オ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

それは、おめでとうございます。こちらこそ、どうぞ、よろしくお願いいたします。<丁寧><上品>

◎「ソーレァ　「マ」ー　オ「メデ」トゴ「ゼァーマ」ス。コ「ーッチコ」ソ　「ド一」ゾ　ヨ「ロ」シューニ　オ「ネゲァー」シ「マ」ス。

それは、まぁ、おめでとうございます。こちらこそ、どうぞ、よろしくお願いします。<親しい関係><やや上品>

※アイサツマワリには、新婦と姑の二人で回った。それは、式の後すぐに行い、その際、内祝として箱の上に新婦の名前の書かれた風呂敷を配って回った。挨拶先は、両隣り2軒と向い3軒ぐらいである。

○テァ「ーテ　キ「ンジョ」モエァ「ーサツマ」ワリニ　マ「ージキ」ゴ「ザ」ルゾ「ヨー」テ　マ「ットリマ」スワ。「デ」ンキ「ツ」ケテ　オ「モテ」ノ。

大抵、近所も挨拶回りに「もうじき、ござるよ」と待っております。電気つけて、表の。

Ⅵ．嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1、10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった父親（60歳台）へ、結婚式に招かれた女性（50歳台）が、昼下がりの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

◎セ「ンジツワ　オ「マネキ」イ「タダ」イテ　ア「リガ」トーゴ「ザイマ」シタ。ホ「ーントニ　リ「ッパナ」ケ「ッコ」ンシキデ　「ケ」ッコーデゴ「ザイマ」シタ。オ「ヨメサンモ　「キ」レーデホ「ンデ　カ「ーワイー」カ「タ」デシタ「ネ」ー。

先日は、お招きいただいて、ありがとうございました。本当に、立派な結婚式で、結構でございました。お嫁さんもきれいで、それで、

かわいい方でしたね。<丁寧><上品>

◎コ「ネァーダワ　「ド」ーモ　ア「リガ」トゴ「ゼァーマ」シタ。「マ」ー　オ「メデ」トゴ「ゼァーマ」シタ。リ「ーッパナ」ケ「ッコ」ンシキダ「ッタネ」ー。

この間は、どうも、ありがとうございました。まぁ、おめでとうございました。立派な結婚式だったね。<一般的><上品>

◎「マ」　リ「ーッパナ」ケ「ッコ」ンシキダ「ッタネ。「マー　オ「タクサマモ　オ「カドガ」ヒ「ッロ」エノニ　タ「ークサ」ンニ「マー　「ヒ」ローシテイ「タデァ」ーテー。

まぁ、立派な結婚式だったね。まぁ、おたく様も、オカドガヒロイ（付き合いが多い）のに、たくさんに、まぁ、披露していただいて。<親しい関係><上品>

2、父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎イ「ロイロト　オ「ココロズ」ケァー　ア「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。オ「イソガシ」ー「ナ」カオ　シュ「ッセキ」イ「タダ」イテ。ナ「ンニ」モ　ワ「カラ」ン　フ「タリ」デゴ「ザイ」マ「ス」デ　コ「ンゴトモ　ヨ「ロ」シュー　オ「ネゲァー」イ「タシマ」ス。

いろいろとお心使い、ありがとうございました。お忙しい中を、出席いただいて。何も分からない二人でございますので、今後とも、よろしくお願いいたします。<丁寧><上品>

◎エー「レァ」ーオ「イワイ　イ「タデァ」ーテ　ア「リガ」トゴ「ゼァーマ」シタ。イ「ソガシガ」ッタダ「ロ」ーニ。「マ」　ア「ノフ「タリ　ワ「ッケァ」ーデ　ヨ「ロ」シュ　タ「ノミマ」スワ。

えらいお祝いをいただいて、ありがとうございました。忙しかっただろうに。まぁ、あの二人、若いので、よろしく頼みますよ。<親しい関係><やや上品>

◎「エーレァ」ー　「マ」　コ「ネァーダ」オ「ヒマザ」エカ「ケ」テ　ア「リガ」トゴ「ゼァーマ」シタ。

えらい、まぁ、この間、オヒマザイ（時間つぶし）かけて、ありがとうございました。<簡単><やや上品>

Ⅶ．結婚式後の仲人へのあいさつ

※仲人へのお礼は、新郎新婦の親がする。その際の礼金は、双方半々で

持ち、どちらかの親（大抵の場合が新郎の親）が代表で、挨拶に行く。

1、結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

◎コ「ノ」タビワ　オ「イソガシ」ー「ナ」カオ　エ「レァ」ーオ「ヤクオ　オ「ネゲァーシマ」シテ　ア「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。ト「ドコーリナ」ク　ヌ「ガサシテ」イ「タデャ」ーテ　オ「ンレー」モ「ーシアゲマ」ス。ナ「ンニ」モ　ワ「カラ」ンフ「タリデ」ゴ「ゼァーマ」スガ　「マ」　「ド」ーゾ　コ「ンゴトモ　ヨ「ロシュ」ーオ「ネゲァーイタシマ」ス。

この度は、お忙しい中を、えらいお役をお願いしまして、ありがとうございました。滞りなく、（着物を）脱がさしていただいて、御礼申し上げます。何も分からない二人でございますが、まぁ、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。＜丁寧＞＜上品＞

◎エ「レァー」オ「ヒマゼァーカケマ」シテ　ア「リガトゴゼァーマ」シタ。「マ」ー　ブ「ジニ」ス「ミャーテ」モ「ラッテ　ヨ「カッタデスワ。「マ」ー　ア「ノコタチ」モ　ナ「ーンニ」モ　ワ「カラ」ンデ　「マ」　ヨ「ロ」シュー　オ「ネゲァーシマ」ス。

えらいオヒマザイ（時間つぶし）かけまして、ありがとうございました。まぁ、無事に済ませてもらって、よかったです。まぁ、あの子たちも、何にも分からないので、まぁ、よろしくお願いします。＜丁寧＞＜上品＞

2、仲人は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「マ」ズ　ト「ドコーリナ」ク　ス「ミマ」シテ　ワ「タシモ　「カ」タノニ「ガ」オ「リマ」シタ。ホ「ントニ　オ「メデ」トゴ「ゼァーマ」シタ。「ド」ーゾ　「マ」　オ「ワケァ」ーオ「フタリ」モ　コ「レカラ」ガ「ンバッテ」チョ「ーダ」イ。

まず、滞りなく済みまして、私も肩の荷がおりました。本当におめでとうございました。どうぞ、まぁ、お若い二人も、これから、がんばってください。＜丁寧＞＜上品＞

四．嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1、嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのような挨拶をしますか。

◎「ジャ」　ソ「レデ」ワ　サ「ト」エ　ヤ「ッテ」イ「タダキマ」

ス。オ「ネゲァーイタシマ」ス。
では、それでは、里へ行かせていただきます。お願いいたします。
<一般的><上品>

2、両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎ア「チラノ」オ「ヤサマニ　ヨ「ロ」シュー「ナ」。
あちらの親様によろしくね。<一般的><中品>

※里帰りは、双方の親同士で日を決める。

◎ナ「ンニチニ　カ「ヤーテ」モ「ラエマスカー。
何日に、（娘を）帰してもらえますか。<嫁の親→姑><一般的><やや上品>

※里帰りには、婿が付いて行くが、挨拶だけで帰る。

◎コ「ネァーダウチワ　ア「リガ」トゴ「ゼァーマ」シタ。
この間うちは、ありがとうございました。<婿→嫁の親><一般的><上品>

◎イ「ロイロト　ア「リガ」トゴ「ゼァーマ」シタ。ヨ「ロ」シューオ「ネゲァーシマ」ス。
いろいろと、ありがとうございました。よろしくお願いします。<嫁の親→婿><一般的><上品>

※エリカザリとは、嫁入り道具のお披露目で、式の次日ぐらいに行う。新郎の親が、近所の人に声をかけて、見にきてもらう。当日、新郎宅では、寿司とお茶で接待し、帰りには紅白饅頭を渡す。

◎エ「リカ」ザリヤ「リマスデ「ー」モ　「マー」イ「ッペ」ンミ「ターッテ」チョ「ーデァ」ー。ナ「ーンニモ　ア「リマセ」ンケ「ド」。
エリカザリやりますで、まぁ、一度見たってちょうだい。なんにもありませんけれど。<姑→近所の人><親しい関係><やや上品>

○「チョー」ット　「キョ」ーワ　ソ「コノ」イ「エ　エ「リカ」ザリダ」ガネ。イ「コ」キャー「モ」ッテテ　ミ「ンナ　サ「ソイアワ」セテオ「イデルワ。
「ちょっと、今日は、そこの家、エリカザリだよ。行こうかね。」と言って、みんな誘い合わせていらっしゃるよ。

（椙山女学園大学文学部）